紋養だより

令和８年３月 24 日
第４号
北海道紋別養護学校
TEL 0158-23-9275
校長　安達　雅美

「『社会で幸せに生きる力』を育てるために」

校長　安　達　雅　美

暦の上では春とはいえ、厳しい寒さが続いております。保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今年度も残すところわずかとなりました。この一年、本校の教育活動に対し多大なるご理解と温かいご支援を賜りましたこと、教職員を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。皆様の温かなお見守りがあったからこそ、子供たちは日々安心して学習や活動に励み、一人一人が自分らしく成長したと感じております。

さて、本校では今年度、「社会参加に向け、一人一人が豊かに生活する力を育てる」という学校教育目標のもと、子どもたちを取り巻く「繋がり」を深化させることに注力した１年でした。私たちの役割は、単なる知識の習得に留まりません。子供たちが卒業後、長い人生を自分らしく、そして「幸せ」に歩んでいくための確かな土台を築くことにあります。変化の激しい現代社会において、自立し共生していくために何が必要かを互いに問いかけつつ、今年度は特に、つながりの深化と社会への一歩」を軸に教育活動を展開してまいりました。子どもたちが、地域での実際的な活動を通じ、家族や教職員以外の大人と触れ合う機会を設けたことで、「社会は多様な人々で成り立ち、自分もその一員である」という実感を育めたように感じております。

大変印象的だったのは、長年継続してきた砂詰めペットボトルの配布会にて、地域の方から「命の砂をもらいに来ました」と声をかけていただいたことは、子供たちが地域貢献を実感する大きな糧となりました。小学部や中学部、高等部、寄宿舎は、より一層、地域との接点を発揮の場面と重要視し継続・改善しています。これまでの積み重ねから生まれた「つながりの種」が、子供たちの確かな成長に結びついていると実感しています。

私たちが常に願うのは、子供たちが「将来の幸せに直結する力」を身に付けることです。地域社会の中での「自分の力が役に立った」「自分が必要とされている」という手応えこそが、自己肯定感を育み、将来の「生きる力」へと繋がります。

次年度も、子供たちが笑顔で自らの将来を描けるよう、教職員一丸となって邁進してまいる所存です。今後とも変わらぬご支援と、子供たちへの温かいご声援を賜りますようお願い申し上げます。